

本資料のうち、枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

女川原子力発電所第2号機 工事計画審査資料	
資料番号	02-工-B-19-0319_改1
提出年月日	2021年10月12日

VI-2-5-5-3-2 管の耐震性についての計算書  
(高圧代替注水系)

02 ③ VI-2-5-5-3-2 RO

2021年10月

東北電力株式会社

## 重大事故等対処設備

## 目次

1. 概要	1
2. 概略系統図及び鳥瞰図	2
2.1 概略系統図	2
2.2 鳥瞰図	6
3. 計算条件	13
3.1 計算方法	13
3.2 荷重の組合せ及び許容応力状態	14
3.3 設計条件	15
3.4 材料及び許容応力評価条件	21
3.5 設計用地震力	22
4. 解析結果及び評価	24
4.1 固有周期及び設計震度	24
4.2 評価結果	33
4.2.1 管の応力評価結果	33
4.2.2 支持構造物評価結果	35
4.2.3 弁の動的機能維持評価結果	36
4.2.4 代表モデルの選定結果及び全モデルの評価結果	37

## 1. 概要

本計算書は、添付書類「VI-2-1-13-6 管の耐震性についての計算書作成の基本方針」（以下「基本方針」という。）に基づき、高圧代替注水系の管、支持構造物及び弁が設計用地震力に対して十分な構造強度及び動的機能を有していることを説明するものである。

評価結果の記載方法は、以下に示すとおりである。

### (1) 管

工事計画記載範囲の管のうち、各応力区分における最大応力評価点の評価結果を解析モデル単位に記載する。また、全3モデルのうち、各応力区分における最大応力評価点の許容値／発生値（以下「裕度」という。）が最小となる解析モデルを代表として鳥瞰図、計算条件及び評価結果を記載する。各応力区分における代表モデルの選定結果及び全モデルの評価結果を4.2.4に記載する。

### (2) 支持構造物

工事計画記載範囲の支持点のうち、種類及び型式単位に反力が最大となる支持点の評価結果を代表として記載する。






### (3) 弁

機能確認済加速度の機能維持評価用加速度に対する裕度が最小となる動的機能維持要求弁を代表として、評価結果を記載する。

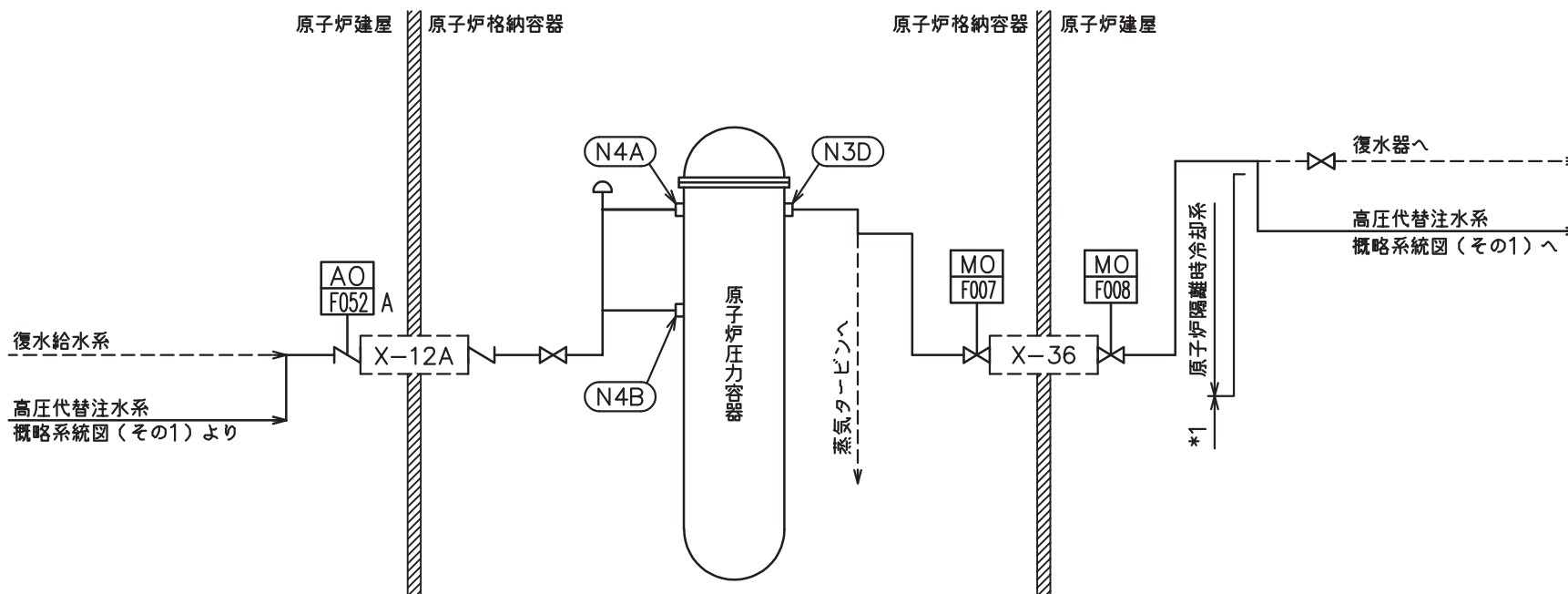
## 2. 概略系統図及び鳥瞰図

### 2.1 概略系統図

概略系統図記号凡例

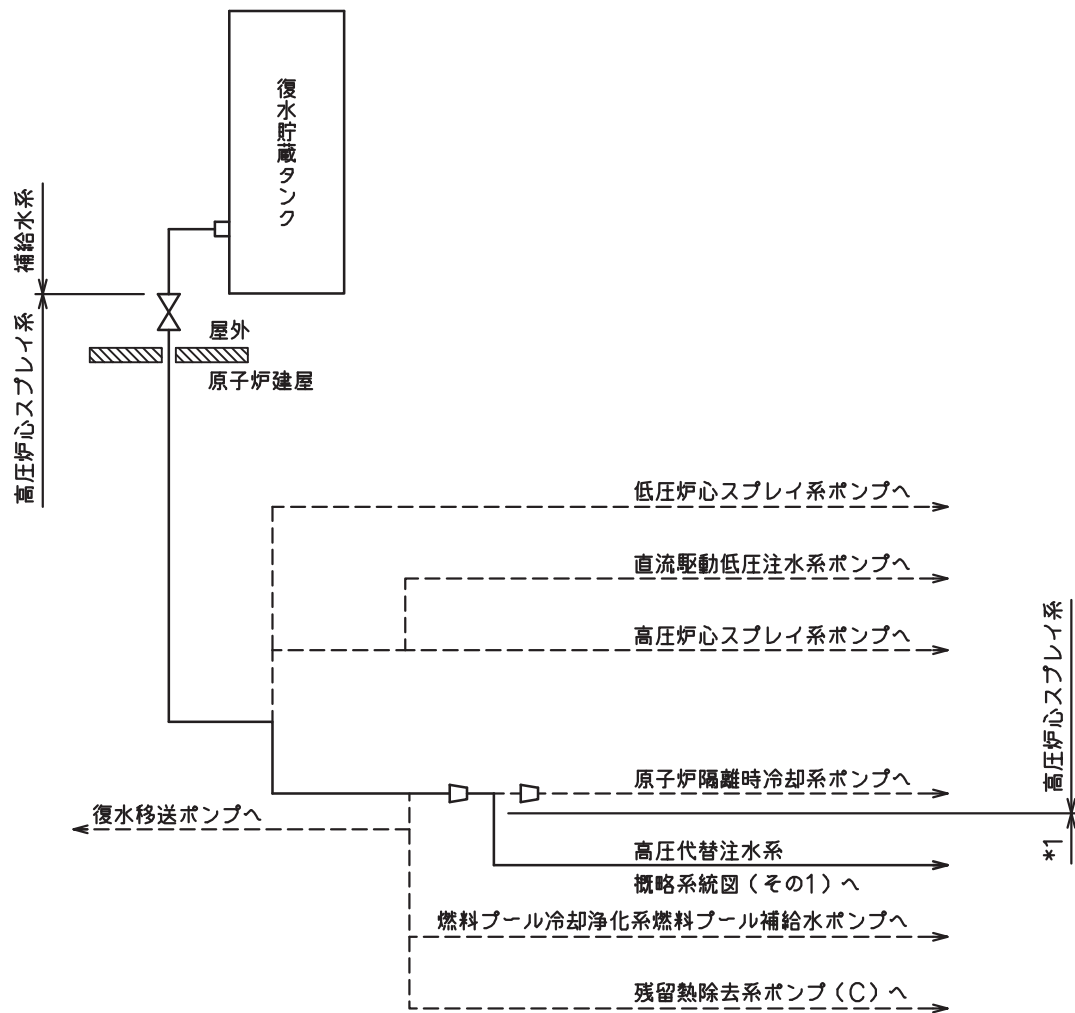
記 号	内 容
 (太線)	工事計画記載範囲の管のうち、本計算書記載範囲の管
 (細線)	工事計画記載範囲の管のうち、本系統の管であって他計算書記載範囲の管
 (破線)	工事計画記載範囲外の管又は工事計画記載範囲の管のうち、他系統の管であって系統の概略を示すために表記する管
	鳥瞰図番号
	アンカ





注記 \*1： 解析モデル上  
原子炉隔離時冷却系に含める。

高圧代替注水系概略系統図（その2）




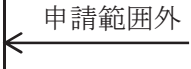




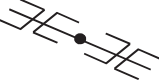

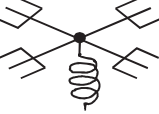
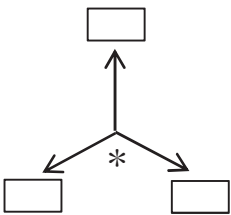
注記 \*1： 解析モデル上  
残留熱除去系に含める。

高圧代替注水系概略系統図(その3)



2.2 鳥瞰図

鳥瞰図記号凡例

記号	内容
	<p>工事計画記載範囲の管のうち、本計算書記載範囲の管</p>
	<p>工事計画記載範囲外の管</p>
	<p>工事計画記載範囲の管のうち、他系統の管であって解析モデルとして本系統に記載する管</p>
	<p>質点</p>
	<p>アンカ</p>
	<p>レストレイント                      (矢印は斜め拘束の場合の全体座標系における拘束方向成分を示す。スナップについても同様とする。)</p>
	<p>スナップ</p>
	<p>ハンガ</p>
	<p>ガイド</p>
	<p>拘束点の地震による相対変位量(mm)                      (*は評価点番号, 矢印は拘束方向を示す。また, <span style="border: 1px solid black; display: inline-block; width: 20px; height: 10px; vertical-align: middle;"></span> 内に変位量を記載する。)</p>

7

鳥瞰図 HPAC-001-1/3

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

∞

鳥瞰図 HPAC-001-2/3

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

6

鳥瞰図 HPAC-001-3/3

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

10

鳥瞰図 HPAC-003-1/3

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

鳥瞰図 HPAC-003-2/3

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

鳥瞰図 HPAC-003-3/3

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

### 3. 計算条件

#### 3.1 計算方法

管の構造強度評価は、「基本方針」に記載の評価方法に基づき行う。解析コードは、「I S A P」及び「S A P-V」を使用し、解析コードの検証及び妥当性確認等の概要については、添付書類「VI-5 計算機プログラム（解析コード）の概要」に示す。



3.2 荷重の組合せ及び許容応力状態

本計算書において考慮する荷重の組合せ及び許容応力状態を下表に示す。

施設名称	設備名称	系統名称	施設分類*1	設備分類*2	機器等の区分	耐震重要度分類	荷重の組合せ*3, *4	許容応力状態*5
原子炉冷却系統施設	非常用炉心冷却設備 その他原子炉注水設備	高压代替注水系	SA	常設耐震／防止 常設／緩和	重大事故等 クラス2管	—	$V_L + S_s$	$V_{AS}$
原子炉格納施設	原子炉格納容器 安全設備	高压代替注水系	SA	常設／緩和	重大事故等 クラス2管	—	$V_L + S_s$	$V_{AS}$

注記\*1：DB は設計基準対象施設，SA は重大事故等対処設備を示す。

\*2：「常設耐震／防止」は常設耐震重要重大事故防止設備を，「常設／緩和」は常設重大事故緩和設備を示す。

\*3：運転状態の添字Lは荷重を示す。

\*4：許容応力状態ごとに最も厳しい条件又は包絡条件を用いて評価を実施する。

\*5：許容応力状態 $V_{AS}$ は許容応力状態 $IV_{AS}$ の許容限界を使用し，許容応力状態 $IV_{AS}$ として評価を実施する。

### 3.3 設計条件

鳥瞰図番号ごとに設計条件に対応した管名称で区分し，管名称と対応する評価点番号を示す。

鳥 瞰 図            H P A C - 0 0 1

管名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	耐震 重要度分類	縦弾性係数 (MPa)
1	14.00	66	114.3	13.5	STS410	—	200360
2	14.00	66	165.2	18.2	STS410	—	200360
3	8.62	302	165.2	14.3	STS410	—	184760

設計条件

管名称と対応する評価点  
評価点の位置は鳥瞰図に示す。

鳥 瞰 図            H P A C - 0 0 1

管名称	対 応 す る 評 価 点														
1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	31														
2	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45
	46	47	48	49	50	51	52	53	54						
3	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70
	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85
	86	87	88	89	90	91									

配管の質量（付加質量含む）

評価点の質量を下表に示す。

評価点	質量(kg)	評価点	質量(kg)	評価点	質量(kg)	評価点	質量(kg)	評価点	質量(kg)
1		19		37		58		76	
2		20		38		59		77	
3		21		39		60		78	
4		22		40		61		79	
5		23		41		62		80	
6		24		42		63		81	
7		25		43		64		82	
8		26		44		65		83	
9		27		45		66		84	
10		28		46		67		85	
11		29		47		68		86	
12		30		48		69		87	
13		31		49		70		88	
14		32		50		71		89	
15		33		51		72		90	
16		34		52		73		91	
17		35		53		74			
18		36		57		75			

弁部の質量を下表に示す。

弁 1

評価点	質量(kg)
54	
55	
56	
92	
93	

弁部の寸法を下表に示す。

弁NO.	評価点	外径(mm)	厚さ(mm)	長さ(mm)
弁1	55			

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

支持点及び貫通部ばね定数

鳥 瞰 図            H P A C - 0 0 1

支持点部のばね定数を下表に示す。

支持点番号	各軸方向ばね定数 (N/mm)			各軸回り回転ばね定数 (N・mm/rad)		
	X	Y	Z	X	Y	Z
1						
13						
16						
22						
24						
** 29 **						
** 33 **						
35						
37						
41						
48						
53						
57						
62						
71						
** 73 **						
75						
** 80 **						
82						
91						
** 93 **						

[Redacted box]

O 2 ③ VI-2-5-5-3-2(重) R 0

設計条件

鳥瞰図番号ごとに設計条件に対応した管名称で区分し，管名称と対応する評価点番号を示す。

鳥 瞰 図            H P A C - 0 0 3

管名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	耐震 重要度分類	縦弾性係数 (MPa)
1	10.34	315	165.2	14.3	STS410	—	183200
2	8.62	302	165.2	14.3	STS410	—	184760
3	8.62	302	114.3	11.1	STS410	—	184760
4	8.62	302	89.1	11.1	STS410	—	184760

設計条件

管名称と対応する評価点  
 評価点の位置は鳥瞰図に示す。

鳥 瞰 図            H P A C - 0 0 3

管名称	対 応 す る 評 価 点														
1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	34
	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47		
2	49	50													
3	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64
4	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78
	79														

配管の質量（付加質量含む）

評価点の質量を下表に示す。

評価点	質量(kg)	評価点	質量(kg)	評価点	質量(kg)	評価点	質量(kg)	評価点	質量(kg)
1		16		35		53		68	
2		17		36		54		69	
3		18		37		55		70	
4		19		38		56		71	
5		20		39		57		72	
6		21		40		58		73	
7		22		41		59		74	
8		23		42		60		75	
9		24		43		61		76	
10		25		44		62		77	
11		26		45		63		78	
12		27		46		64		79	
13		28		50		65			
14		29		51		66			
15		34		52		67			

弁部の質量を下表に示す。

弁 1

評価点	質量(kg)
47	
48	
49	
80	
81	

弁部の寸法を下表に示す。

弁NO.	評価点	外径(mm)	厚さ(mm)	長さ(mm)
弁1	48			

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

支持点及び貫通部ばね定数

鳥 瞰 図            H P A C - 0 0 3

支持点部のばね定数を下表に示す。

支持点番号	各軸方向ばね定数 (N/mm)			各軸回り回転ばね定数 (N・mm/rad)		
	X	Y	Z	X	Y	Z
1						
3						
6						
9						
14						
16						
20						
27						
37						
43						
46						
52						
58						
61						
66						
** 68 **						
70						
79						
** 81 **						

O 2 ③ VI-2-5-5-3-2(重) R 0

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

### 3.4 材料及び許容応力評価条件

使用する材料の最高使用温度での許容応力評価条件を下表に示す。

材料	最高使用温度 (°C)	S <sub>m</sub> (MPa)	S <sub>y</sub> (MPa)	S <sub>u</sub> (MPa)	S <sub>h</sub> (MPa)
STS410	66	—	231	407	—
	302	—	182	404	—
	315	—	180	404	—



### 3.5 設計用地震力

本計算書において考慮する設計用地震力の算出に用いる設計用床応答曲線を下表に示す。

なお、設計用床応答曲線は、添付書類「VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針」に基づき策定したものをを用いる。また、減衰定数は、添付書類「VI-2-1-6 地震応答解析の基本方針」に記載の減衰定数を用いる。

鳥 瞰 図	建物・構築物	標高(O.P. (m))	減衰定数(%)
H P A C - 0 0 1	原子炉建屋		

設計用地震力

本計算書において考慮する設計用地震力の算出に用いる設計用床応答曲線を下表に示す。  
 なお、設計用床応答曲線は、添付書類「VI-2-1-7 設計用床応答曲線の作成方針」に基づき  
 策定したものをを用いる。また、減衰定数は、添付書類「VI-2-1-6 地震応答解析の基本方針」  
 に記載の減衰定数を用いる。

鳥 瞰 図	建物・構築物	標高(O.P. (m))	減衰定数(%)
H P A C - 0 0 3	原子炉建屋		

4. 解析結果及び評価

4.1 固有周期及び設計震度

鳥 瞰 図 HPAC-001

適用する地震動等		S d 及び静的震度			S s		
モード	固有周期 (s)	応答水平震度*1		応答鉛直震度*1	応答水平震度*1		応答鉛直震度*1
		X 方向	Z 方向	Y 方向	X 方向	Z 方向	Y 方向
1 次							
2 次							
3 次							
4 次*2							
動的震度*3							
静的震度*4							

注記\*1：各モードの固有周期に対し、設計用床応答曲線より得られる震度を示す。  
 \*2：固有周期が0.050 s 以下であることを示す。  
 \*3：S d 又は S s 地震動に基づく設計用最大床応答加速度より定めた震度を示す。  
 \*4： $3.6C_I$  及び  $1.2C_V$  より定めた震度を示す。

各モードに対応する刺激係数

鳥 瞰 図 HPAC-001

モード	固有周期 (s)	刺激係数*		
		X 方向	Y 方向	Z 方向
1 次				
2 次				
3 次				

注記\* : 刺激係数は、モード質量を正規化し、固有ベクトルと質量マトリックスの積から算出した値を示す。

## 代表的振動モード図

振動モード図は、3次モードまでを代表とし、各質点の変位の相対量・方向を破線で図示し、次ページ以降に示す。

鳥瞰図 | HPAC-001

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

鳥瞰図 | HPAC-001

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

鳥瞰図 | HPAC-001

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。



固有周期及び設計震度

鳥 瞰 図 HPAC-003

適用する地震動等		S d 及び静的震度			S s		
モード	固有周期 (s)	応答水平震度*1		応答鉛直震度*1	応答水平震度*1		応答鉛直震度*1
		X 方向	Z 方向	Y 方向	X 方向	Z 方向	Y 方向
1 次*2							
動的震度*3							
静的震度*4							

注記\*1：各モードの固有周期に対し、設計用床応答曲線より得られる震度を示す。

\*2：固有周期が0.050 s 以下であることを示す。

\*3：S d 又はS s 地震動に基づく設計用最大床応答加速度より定めた震度を示す。

\*4： $3.6C_1$  及び $1.2C_v$  より定めた震度を示す。

### 代表的振動モード図

振動モード図は、1次モードまでを代表とし、各質点の変位の相対量・方向を破線で図示し、次ページ以降に示す。

鳥瞰図 | HPAC-003

枠囲みの内容は商業機密の観点から公開できません。

4.2 評価結果

4.2.1 管の応力評価結果

下表に示すとおり最大応力及び疲労累積係数はそれぞれの許容値以下である。

重大事故等クラス2管であってクラス2以下の管

鳥瞰図	許容応力 状態	最大応力 評価点	最大応力 区分	一次応力評価 (MPa)		一次+二次応力評価 (MPa)		疲労評価
				計算応力	許容応力	計算応力	許容応力	疲労累積係数
				$S_{pr m}(S_s)$	$0.9 \cdot S_u$	$S_n(S_s)$	$2 \cdot S_y$	$U S_s$
HPAC-001	$V_A S$	75	$S_{pr m}(S_s)$	94	363	—	—	—
	$V_A S$	71	$S_n(S_s)$	—	—	149	364	—

管の応力評価結果

下表に示すとおり最大応力及び疲労累積係数はそれぞれの許容値以下である。

重大事故等クラス2管であってクラス2以下の管

鳥瞰図	許容応力 状態	最大応力 評価点	最大応力 区分	一次応力評価 (MPa)		一次+二次応力評価 (MPa)		疲労評価
				計算応力	許容応力	計算応力	許容応力	疲労累積係数
				$S_{pr m}(S_s)$	$0.9 \cdot S_u$	$S_n(S_s)$	$2 \cdot S_y$	$U S_s$
HPAC-003	$V_A S$	50	$S_{pr m}(S_s)$	64	363	—	—	—
	$V_A S$	1	$S_n(S_s)$	—	—	171	360	—

4.2.2 支持構造物評価結果

下表に示すとおり計算応力及び計算荷重はそれぞれの許容値以下である。

支持構造物評価結果（荷重評価）

支持構造物 番号	種類	型式	材質	温度 (°C)	評価結果	
					計算 荷重 (kN)	許容 荷重 (kN)
HPAC-003-070H	スプリングハンガ	VS30B-05	添付書類「VI-2-1-12-1 配管及び支持構造物の耐 震計算について」参照		884N	1230N
HPAC-001-093SB	メカニカルスナッパ	SMS-6-100			28	90
HPAC-001-080B	ロッドレストレイント	RTS-3			22	45

支持構造物評価結果（応力評価）

支持構造物 番号	種類	型式	材質	温度 (°C)	支持点荷重						評価結果		
					反力(kN)			モーメント (kN・m)			応力 分類	計算 応力 (MPa)	許容 応力 (MPa)
					F <sub>X</sub>	F <sub>Y</sub>	F <sub>Z</sub>	M <sub>X</sub>	M <sub>Y</sub>	M <sub>Z</sub>			
HPAC-001-053R	レストレイント	Uプレート	SS400	66	0	50	52	—	—	—	せん断	130	135
HPAC-001-091A	アンカ	ラグ	SGV410	302	11	9	18	9	10	3	組合せ	32	199

4.2.3 弁の動的機能維持評価結果

弁番号	形式	要求機能	機能維持評価用加速度 ( $\times 9.8\text{m/s}^2$ )		機能確認済加速度 ( $\times 9.8\text{m/s}^2$ )	
			水平	鉛直	水平	鉛直
—	—	—	—	—	—	—

4.2.4 代表モデルの選定結果及び全モデルの評価結果

代表モデルは各モデルの最大応力点の応力と裕度を算出し、応力分類ごとに裕度が最小のモデルを選定して鳥瞰図、計算条件及び評価結果を記載している。下表に、代表モデルの選定結果及び全モデルの評価結果を示す。

代表モデルの選定結果及び全モデルの評価結果(重大事故等クラス2管であってクラス2以下の管)

No.	配管モデル	許容応力状態 $V_A S$												
		一次応力					一次+二次応力					疲労評価		
		評価点	計算 応力 (MPa)	許容 応力 (MPa)	裕度	代表	評価点	計算 応力 (MPa)	許容 応力 (MPa)	裕度	代表	評価点	疲労 累積 係数	代表
1	HPAC-001	75	94	363	3.86	○	71	149	364	2.44	—	—	—	—
2	HPAC-002	21	38	363	9.55	—	17	89	418	4.69	—	—	—	—
3	HPAC-003	50	64	363	5.67	—	1	171	360	2.10	○	—	—	—